

- 8:00 breakfast ホテルにて european breakfast。日本食風の朝がゆがある。これにフライドした豚のミンチ（トムヤムクン風の味付け）をトッピングして食する。これは thai lao とも、よく出された。帰国する J L 機の機内食としても供された。
Emporium(高級デパート)内のツーリストで VIENTIANE への Air チケットを入手すべく、Phrom Phong(プロンポン)までツクツクで移動。徒歩で約 20 分のところ。Sukhumvit(スクンヴィット通り・バンコクの目抜き通り)近く。
- 9:30 プロンポンに着くも、カメラ用メモリーチップを忘れたことに気づき、タクシーにてホテルに一旦、帰る。
- 10:00 再度、プロンポン。エンポリウムが開店するのを待って、ツーリストへ。結局、LaoAir のチケットは入手できず、タイ航空のチケットを入手。
BTS (高架を走る電車) で Asok (アソーク) へ移動。
- 12:30 アソーク駅着。高架から降りて、昼食を採る。スクンビット通りから少し入った「スクンビットハウス No. 1」でタイ料理の昼食。客は他にひと組のみ。
アソーク駅から MTR で HuaLamphong(ファランボーン駅、バンコク中央駅)に行き、HONG KHAI→AYUTTHAYA の夜行寝台のチケットを手に入れることとする。
- 13:30 ファランボーン駅着。二人用コンパートメント、クーラー付きをゲット。
駅前の裏町を散策。駅 2 階でコーヒーを飲みながらマンウォッチング。コーヒーショップ店名はブラックキャニオン。コーヒーの概念とは異なるもの。
- 15:20 ワットプラケオと王宮見学 (Wat Prakaew Grand Palace)
(ファランボーン駅からタクシー、交通渋滞あり 4 時の閉館に間近か)
- 16:40 ワットポー見学 (Wat Po)
- 17:30 ナイトマーケット (スワンルムナイトバザール) を歩き、両替などしながら、バンコク在住家族と待ち合わせ。彼は会社の乗用車で駐車場に到着。
観覧車近くのチャイニーズレストランで夕食。ホテルまで彼の車で移動。
- 21:30 State Tower ビル 6 2 階屋上 (Dome) でビールと夜景を楽しむ。
- 23:30 ホテル着



ホテルの窓からもWatの風景



高級ブランドショップの Emporium デパートの玄関にも仏教施設が。50歳がらみのおばさんがお供え物を。興味深く見ていると、ひとつ如何。バナナの葉にくるまれた「おはぎ」様の甘いもの。



小さな人形の様なものがピッシリ並べられている。よく見るときらびやかな色彩の右のようなもの。





かなり高めの一軒家レストラン。チーク材の元貴族屋敷。床のブラウン、外壁の純白。タイ料理の香草には少々なじめず。



庭の佇まい。このような店にも祭壇が



バンコク中央駅。終着駅。ドーム型屋根。2週間後再びこの駅に降り立つ。



待合室風景。広場の両側に1, 2階に各種施設。便利にできている。



道路を隔てた駅前に個人商店が立て込んでいる。狭い通路の両側に食べ物・雑貨あらゆるものが。臭気に満ちた空間。いち時期の上野アメヨコを臭くしたものの。この臭気には辟易。

Wat Prakaew Grand Palace ワットプラケオ・王宮



ワットプラケオは1782年、ラーマー世がバンコクに遷都し、王宮が建設され、同時に王朝の守護寺、護国寺としてこのワットの建設が始められたという。基礎の部分にはビルマ軍に破壊されたアユタヤの遺跡を崩して取り出されたレンガが使われているとのこと。全ての建築物は常に修復作業が行われ、新築のように光輝いている。本堂にはエメラルド色の仏像（実物はヒスイ）を祀っていることからエメラルド寺院と称されている。

特異な建築デザインと色使い、燦然と輝くガラスモザイクの外装、金色に光る仏塔、それらを取り巻き、猿、鳥、獅子、蛇などの動物をモチーフにした彫像が配置されている。それぞれに特別の意味が含まれるものであろうが、我々にはわからない。イマジネーション豊かに具現化された守り神か？異様な異文化空間であり、足を踏み入れた最初はその異様さに圧倒されるが、しばらくこの空間に身を置くにつれ、燦然たる外壁もケバケバしさだけではない、嫌みのない静けさが感じられるのは何故か。高い文化的到達度を示すものか。





ワットプラケオは周囲を屋根付きの回廊で囲まれており、回廊の内壁にはインドの叙事詩「ラーマーヤナ」をタイ風に翻案した「ラーマキエン」が描かれている。絵柄を順に追っていくと何となく物語のストーリーになっている感じ。若者の男女により、今日も修復が行われている。エキゾチックだが、さして違和感のない質の高いものである。この壁画に触れていると、一層にワット全体に違和感無く、浸れるから不思議だ。

↑ 長い回廊



←男女の若者による修復作業

↓ アンコールワットのミニチュア



何故か、境内にアンコールワットが。19世紀末、当時シャム国の属国であったクメール国の大寺院に感動したラーマ4世が作らせたものとのこと。

傷みの激しい本物よりも、美しいのではないかと いわれるほど精巧。カンボジア探訪も兼ねている。



王宮のドウシット・マハ・プラサート宮殿

正十字型の寺院風の本体の上に複雑な7層構造の屋根。
この宮殿では王族の葬儀などの儀式に使われるという。タイ風の美しい建物。



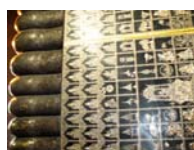
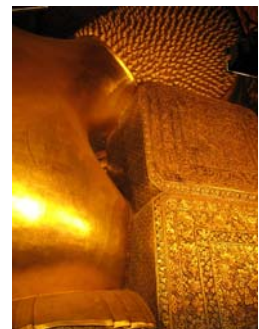
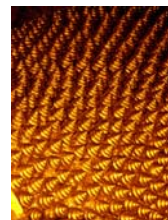
← チャクリー・マハ・プラサート宮殿

設計はイタリア人建築技師。3階までは大理石を用いたビクトリア様式。重層の屋根から尖塔に至るタイの伝統的建築様式と融合。

完成は1882年。正面からは、迫力十分。よくマッチしている。

ワット・ポー (Wat Pho)

大寝釈迦仏とタイ式マッサージの総本山として知られる王宮寺院。全長46㍎、高さ15㍎という巨大さ。レンガで形どり、漆喰で造形されたという。ただただ、唾然として、圧倒されるのみ。



← 巨大な扁平の足の裏。バラモン教による宇宙観が螺鈿細工画によって表現されているという。扁平足の足裏はその人が超人であることを示す32の身体的特徴の一つとされているとのこと。



← 賽銭として供えられたコインを108の壺に投入することによって願をかなえる。 →



チャイニーズレストラン（スワンルムナイトバザール）と State Tower 62F ↓

